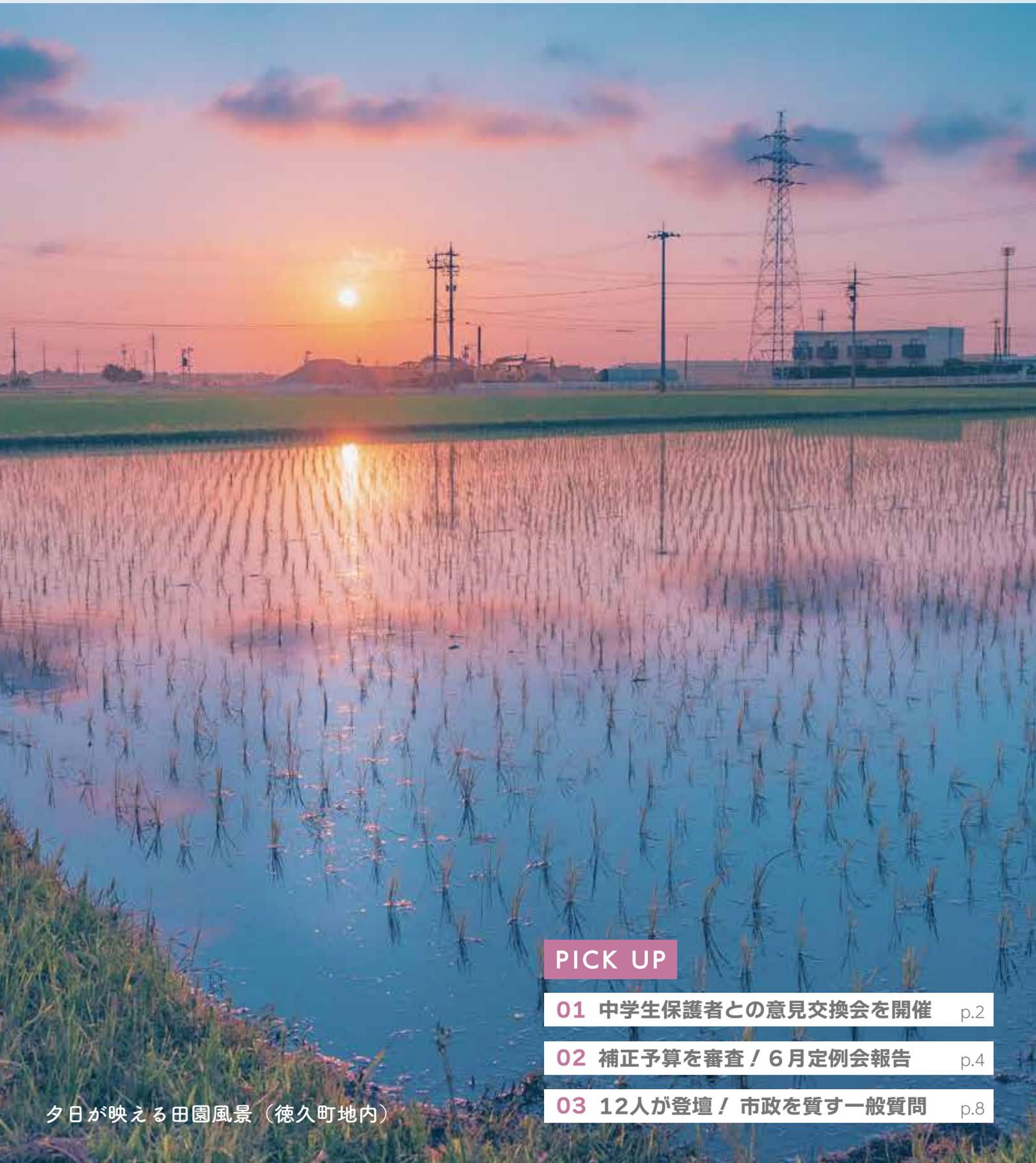


nómi

能美^{〔のみ〕}市議会だより

vol.
84
2024.8.1



PICK UP

01 中学生保護者との意見交換会を開催 p.2

02 補正予算を審査！6月定例会報告 p.4

03 12人が登壇！市政を質す一般質問 p.8

夕日が映える田園風景（徳久町地内）

中学生保護者との意見交換会



令和6年5月20日(月) 能美市役所 協議会室、委員会室にて

現在、中学校では休日の部活動を段階的に地域移行していく動きがあることをご存じでしょうか？

教育福祉常任委員会では「学校部活動の地域移行」について調査研究しており、市内の現状を把握するため、中学生保護者との意見交換会を開催しました。

部活動の地域移行とは

部活動の地域移行とは、これまで学校が主体となってきた部活動を、新たに地域が主体となつて活動する「地域クラブ活動」に移行することです。各部活動の実態に応じて、部活動指導員を活用することや、部員が少ない学校では、複数の学校で合同練習を行うことなどの地域連携にも取り組みながら、地域移行を進めていきます。

休日の部活動の地域移行を進めるきっかけ

背景には少子化による生徒の減少や教員の働き方改革があります。また、専門外の教員が部活の顧問となつた場合、教員の負担は大きく、生徒にとつても不安が大きいと考えられることから、そのような問題に対応するために、能美市では休日の部活動の地域移行を令和7年度末までに進めることとなっております。

大会や練習試合への引率について

主に中学校体育連盟主催の大会などの引率は、規定により顧問の教員が行うことになっておりと聞いています。



部活動に打ち込む中学生

平日の部活動の地域移行について

能美市は令和7年度末までに休日の地域移行の完了を目指しています。平日については、移行が可能な部活動において、その状況を見て判断されていきます。

部活動ごとの意見

- 陸上部** 土日は物見山陸上競技場に行くため、送迎の負担が大きい
- 吹奏楽部** 平日と土日で指導者が変わると子どもたちが混乱する
- 野球部** 合同チームとなった場合、子どもたちの心理面が心配
- バスケット部** 寺井にクラブがあるが、辰口や根上の子どもは通えるのか

部活動の地域移行を考える



保護者の思い

- 地域移行を実施するのであれば、保護者に対してしっかりと具体的な説明を行ってほしい。
- 地域移行が適している部活と適していない部活の見極めをしっかりと行ってほしい。
- 休日の送迎を親が行うことになる負担が大きくなりそう。
- 地域移行することによって、費用面での負担がこれまでよりも増えるのでは。
- 本格的な競技クラブだけではなく、気軽にスポーツを楽しめるようなクラブがあるとうれしい。
- 地域移行した場合、指導者は生徒の学校での様子を把握できないため、勉強との両立や心のケアなどのサポートを考えてほしい。
- 子ども一人ひとりに寄り



- 学校生活と部活動を切り離して考えるのではなく、子どもたちの様子を学校側に報告し、先生と指導者が連携した体制を整えてほしい。
- コーチの都合や子どもたちの移動で部活動の開始時刻が遅くなることで、夕食の時間が遅れたり、勉強時間の確保が難しくなりそう。
- 子どもに怪我や体調変化等が起きた場合の責任の所在を明らかにしてほしい。

参加者アンケートから

・見えていないことがまだ多いですが、話を聞いてくれる機会があった良かったです。

・地域移行のことをほとんどわかっていない保護者の方もいたので、説明をきちんとして周知しないと、理解が得られないと思います。

・議員の皆さんが私たちが不安に思っている事を聞いて下さる姿を見て、イメージが変わりました。

・今後、保護者と議会が一つとなって地域を盛り上げられる取り組みが何かできたら嬉しいです。

意見交換会を終えて

部活動の地域移行にあたっては、学校、指導者、親の連携が極めて大切だと感じた。また、何よりも子どもたちを第一に考え、議会としても、健全で持続可能な部活動の地域移行に向けた実効性のある政策提言を行ってきたい。

今回の意見交換会の模様や参加者へのインタビューがYouTubeで視聴できます。ぜひご覧ください！「能美市議会 YouTube」で検索！



大規模災害への備え

令和6年6月定例会が6月5日から6月26日まで(22日間)開催され、審査の結果、議案31件を可決・承認しました。

今回は、令和6年能登半島地震復旧・復興に関する補正予算等が計上されました。ここでは、その主な内容をピックアップして紹介します。

災害に負けないまちづくりを目指して

災害備蓄品の備蓄量を拡充

予算額 1,000 万円

令和6年能登半島地震により、水道等のライフラインが途絶えた状況下でニーズが高かった災害備蓄品(簡易トイレ袋、使い捨て哺乳瓶)の備蓄量を発災後3日分から7日分に拡充します。

Q 簡易トイレ袋12万枚、使い捨て哺乳瓶4,500個の追加数の根拠は

A 簡易トイレ袋は家屋の倒壊等により家庭備蓄を失う人数を4,200人と想定。7日分を14万7千枚と見積り、現在保有の約3万枚に12万枚を追加することとした。使い捨て哺乳瓶は、4,200人のうち乳幼児を2.2%と想定し、現在の約700個に4,500個追加することとした。



災害時用簡易トイレ袋の使用例

崩落した市道緑が丘東37号線等を復旧

予算額 1億6,000万円

令和6年能登半島地震の影響により崩落した市道緑が丘東37号線等の道路の復旧工事を行います。

Q 緑が丘東37号線の完全復旧はいつ頃になるのか

A 緑が丘東37号線については、年内の復旧を目指している。

Q 上開発町側への土砂崩れへの対応はどの程度するのか

A 土砂崩れへの対応は、今回の復旧工事で崩れ落ちた土や、土嚢の撤去、埋没した水路の復旧も行い、被災前の状態に戻す。



一部が崩落した市道緑が丘東37号線

その他の補正予算の詳細は市ホームページをご覧ください。



九谷焼美術館 | 体験館 | の屋根を復旧

予算額 120万円



被災した九谷焼美術館 | 体験館 | の屋根

令和6年能登半島地震で被害のあった九谷焼美術館 | 体験館 | 屋根瓦の破損や、屋根棟のずれを修繕します。

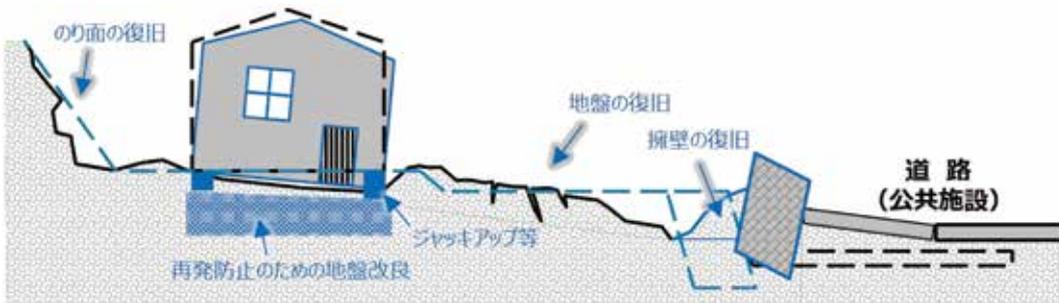
Q いつ着工して、どのくらいの工期を想定しているのか

A 7月中の着工を目指し、工期は3週間程度を見込んでいる。
今年の秋に予定している体験館のリニューアルオープンに間に合うように進めていく。

被災宅地等の復旧工事費を補助

予算額 6,500万円

〔イメージ図〕



被災した宅地の早期復旧を図るため、所有者が実施する宅地の復旧工事に対する費用を支援します。

補助額：補助対象額から50万円を控除した額の5/6

Q 宅地の被災状況の確認はどのように行うのか

A 被災状況については、市の職員が写真や現地を確認する。

児童手当・給付金の内容を拡充

予算額 1億2,990万円



〈児童手当拡充内容〉

①支給対象を中学生年代から高校生年代までへ延長
②所得制限を撤廃
③第3子以降の児童は月額3万円に増額

国の児童手当制度の抜本的拡充に伴い、事業費を増額します。

Q 手当や給付金を受けるためには、申請が必要なのか

A 新たに受給資格を得ることとなる高校生などについては、申請が必要となってくるので、今後、対象者への個別通知を予定している。

④算定児童を高校生年代から22歳年度末へ延長
⑤支払月を年3回から年6回に変更

災害備蓄品整備費について 議員間討議を実施

災害備蓄品（簡易トイレ袋と使い捨て哺乳瓶）の追加整備について

今回の補正予算で災害対策費の災害備蓄品整備費を拡充したことに對し、2つの論点で議員間討議が行われました。

論点① 追加購入する数量が不十分ではないか

意見

- ・ 今回の追加整備において基準となる4,200人という数字は、能美市の人口の1割弱にしか過ぎず、追加の備蓄が必要だ。
- ・ 備蓄数は石川県の試算をもとに算出しており、追加整備の数としては妥当である。
- ・ 個人または家族で、1枚の簡易トイレ袋を複数回使用することも選択肢の一つではないか。

論点② 個人による備蓄の重要性を訴えていく事の大切さ

意見

- ・ 市が全市民分の災害備蓄品を整備することは現実的ではなく、各家庭においても備えてもらうように市から積極的に啓発・周知活動すべき。
- ・ 災害の際に、簡易トイレ袋を必要としている人に速やかに行きわたるよう、指定避難所だけでなく町会・町内会における備蓄を進めていくことが大切である。

まとめ

議員間討議の結果、以下の合意形成に至りました。

今回の補正予算には賛成だが、市としての備蓄を今一度検討の上、増加することを求める。その際には、市が備品配布の効率化の面から、町会・町内会に対して備蓄品に係る補助制度を創設し、備蓄の後押しが必要ではないか。

私はこう考える！ 討論で 「賛成」 「反対」

令和6年度能美市一般会計補正予算（第2号）

反対

近藤 啓子 議員（日本共産党）

取り残しが予測される

デジタル地域通貨「トチツーカー」はマイナンバーカードの利用が前提であり、一部の人の取り残しが予測される。

賛成

今尾 晃司 議員（流和のみ）

成功事例となることを期待する

スマートインクルーシブシティ推進事業により、公民館の利便性、地域力、市民力の向上につながる成功事例を期待する。

能美市外国人高齢者福祉手当支給条例を廃止する条例について

反対

近藤 啓子 議員（日本共産党）

今後の可能性を考えて廃止はやめよ

月5千円の福祉手当を対象者がいなくなったため廃止するものだが、今後の可能性を考えて残すべきではないか。

賛成

荒井 昌宏 議員（能美保守の会）

役割を終えている

今後、受給資格に該当する者がおらず、役割を終えている。

① 北陸新幹線の米原ルートへの再考を求める決議

北陸新幹線を太平洋側、首都圏のみならず関西圏とも早期に接続をするためにも、敦賀・米原間の接続が最良の選択であり、改めて、米原ルートへの再考を強く要望するものである。

② 令和6年能登半島地震からの復旧・復興への更なる支援を求める意見書

被災者の方々が一日も早く穏やかな生活を取り戻し、息の長い取り組みとなる「創造的復興」が着実に実現できるよう、補助制度の創設・拡充など、更なる復旧・復興への支援を行うこと。

③ 教職員の重要性を踏まえた教師の処遇改善を求める意見書

- 1.教育の質の向上や勤務環境の改善に向け、小学校教科担任制の拡充をはじめ、教職員定数の改善、支援スタッフの配置充実等を図ること。
- 2.優れた人材を確保するため、本年度中に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法改正案を提出し、処遇の抜本的な改善を図ること。
- 3.不登校やいじめ、特別支援教育等の学校全体の取り組みに中核的な役割を果たしている教師など、職責や負担に応じた処遇改善を図ること。

6月定例会 議決結果と議員の賛否



全議案の議決結果は市議会ホームページで公開しています

議案31件のうち 賛否が分かれた議案	議決結果 ○：賛成 ×：反対	荒井	中村	澤田	今尾	山下	卯野	北村	仙台	山本	田中大佐久	田中策次郎	南山	東	近藤	杉田	
		昌宏	純子	貞	晃司	毅	修三	周士	謙三	悟			修一	正幸	啓子	隆一	
能美市外国人高齢者福祉手当支給条例を廃止する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
能美市ひとり親家庭等福祉手当支給条例を廃止する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
能美市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
能美市乳幼児等の医療費助成に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長は採決に加わりません	○	○	○	×	○	
能美市本社機能立地促進のための固定資産税の課税の特例に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
能美市企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
能美市介護老人保健施設条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
令和6年度能美市一般会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
石川県後期高齢者医療広域連合規約の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
専決処分の報告について （能美市国民健康保険条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて）	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	
議決結果	全議案可決・承認	市長提出 … 28件 議員提出 … 3件															

一般質問

市のさまざまな施策や課題等について、議員が自身の提案も含めて市の考えを聞くのが一般質問。6月定例会で出された「67」の質問から、厳選した内容をダイジェストで紹介します。

防災減災対策

自主防災訓練のあり方	p.8
田んぼダムの今後の展開	p.10
災害備蓄品の補充	p.12
福祉と防災	p.13

安全安心のまちづくり

緑が丘の市道の復旧	p.10
感震ブレーカーの普及	p.11

インクルーシブシティ構想

デジタル化の推進	p.12
----------	------

子育て・住環境の充実

運転免許証返納者	p.9
ひとり親家庭への手当	p.14

その他

旧辰口フラワーハウス跡地	p.9
こども計画	p.11
九谷焼若手作家への支援	p.13

本紙掲載以外の質問については、各議員のページに設置しているQRコードからYouTubeでご覧いただけます。

12名が登壇

詳しい内容は
こちらから

YouTube



会議録



※6月定例会の会議録は9月上旬に公開予定です

自主防災訓練のあり方を示せ

答弁

安否確認マニュアルを整備する

Q 町会・町内会の自主防災訓練のあり方を示せ

A 災害時の安否確認を円滑に進めるためのマニュアルを整備し、町会・町内会でのルール作りに活かしてもらおう。

Q 令和6年能登半島地震での各町会・町内会の安否確認の実施状況を踏まえ、より効果が高まる自主防災訓練のあり方を示すべきと考えるが、市の見解を問う

A 市内のモデル事例である共助の取り組みの「隣組」では、ご近所ごとに小さなグループを決め、災害時には自動的に安否確認を行い、町会・町内会に情報を集約し共有を図ることで、救助や支援が必要な場所に住民の力を集中できる利点

がある。今後、町会・町内会の自主防災訓練に市職員や防災士が立ち会い、実施内容を確認する体制の検討をしていく。

卯野修三 議員

能美保守の会



こんな質問も

・不妊治療費の全額補助



▲町会・町内会で開催される自主防災訓練

新施設の名称を辰口温泉にできないか

答 弁
跡地の計画概要が固まった段階で相談を



南山修一 議員
みなみやま しろういち
流和のみ

Q 旧辰口フラワーハウス跡地の供用開始に向けた進捗状況を問う

A 地域の賑わい拠点として最低限必要となる機能とその規模感、また周辺観光との相乗効果を高めるため、民間活力を導入した市有地の土地活用策について、今年度を目標に民間事業者を公募していきたい。事業者選定後は、事業者の進捗を市でもサポートしながら、一日も早い供用開始を目指す。

資源としての魅力や賑わいを創出するなど大きな役割を果たしている。

施設の名称については、民間事業者の跡地活用の計画概要が固まった段階で関係者と相談していきたい。

Q 辰口温泉ゆかりの地で新施設名を「辰口温泉」にできないかを問う

A 辰口温泉は、開湯千四百年の歴史と安らぎに浸れる金沢の奥座敷として古くからこの地域の発展に寄与し、観光



▲辰口温泉ゆかりの地の命名を

こんな質問も

- ・広域避難者
- ・支援活動
- ・市道の復旧



運転免許証返納者の家族にも支援を

答 弁
バスフリーパス券の購入補助を実施している



山下 毅 議員
やました つよし
能美保守の会

Q 運転免許証を持つ70歳以上の割合と課題を問う

A 本市における70歳以上の運転免許証所持者は、令和5年度末時点で6719人と、市全体の運転免許証所持者の約19%を占めている。高齢者の運転に伴う課題として認知、身体的な機能低下からの事故の増加が挙げられる。

Q 運転免許証自主返納者の配偶者にもバスフリーパス券を交付せよ

A 市では、移動に困っている市民全員を対象にバスフリーパス券の購入補助を行っており、特に65歳以上の方には、タクシー乗車券と組み合わせたおでかけパスポートも提供して

いる。さらに、75歳以上や障害のある方には福祉タクシー利用助成事業を実施しており、地域福祉活動にも支援を行っている。運転免許証を自主返納された方だけでなく、家族の方も積極的に移動支援を活用いただきたい。



▲おでかけパスポート券

こんな質問も

- ・相続登記の影響
- ・義務化と影響



緑が丘市道災害 本復旧の見通しは

答弁
年内復旧に向けて
全力で取り組む

いまお
いしじ
今尾 晃司 議員
流和のみ



Q 本復旧工事の見通しと近隣住民への影響を問う

A 本復旧工事は7月上旬に契約予定で年内の現地完成を目指す。工事に伴い、近隣住民へ影響を及ぼさないようにするため、応急復旧工事による押さえ盛土を地表から機械を用いて地盤改良する工法としている。工事車両の通行や騒音、振動等については、工事契約後に受注者と検討し、町会及び近隣住民へ相談する。

Q 重点パトロールと町会へ進捗報告をすべきである

A 現地の状況を注視しており、6月3日早朝に発生した地震の際にも変状がないことを確認し町会へ報告した。

水防パトロールの重要点検箇所
に位置づけ、降雨中は現地の状
況を逐次把握するほか、本復旧
工事の施工中は受注者と連携し
常時監視する。町会への報告は、
近隣住民に安心していただくた
め、引き続き取り組んでいく。



▲約70mに渡るのり面崩落箇所

こんな質問も
・丘陵公園の充実
・放課後児童クラブ
の外遊びの充実



田んぼダムの今後の 展開は

答弁
田んぼダムの取り組みを
普及していく

やまむね
やまもと
山本 悟 議員
流和のみ



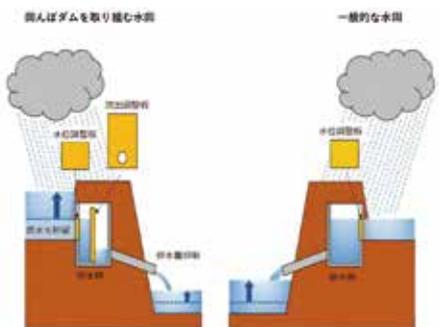
Q 田んぼダムの目的、期待される効果を問う

A 下流域の浸水被害の軽減に加え、下流の河川においても水位上昇が抑制され、安全度が向上し、下流域まで幅広く波及することから、水田面積の広い本市においては、大きな効果が期待できると考えている。

Q 田んぼダムの実証実験の具体的な内容及び今後の展開について問う

A 今年度予算では、市内の4農家、計8筆の水田で3品種の米を対象に、作付への影響を検証する実証実験を実施する。石川県とJAの協力を得て水稲への収量・品質調査及び農家へのヒアリングを行う。今後の展開については、この実

証実験の結果を踏まえ、農業者や地権者の理解を得て、田んぼダムの取り組みを普及していきたいと考えている。



▲田んぼダムのしくみ

こんな質問も
・旧根上フラワーセンター跡地活用



感震ブレーカーの普及啓発を図れ

答弁 実際に見て、触って、確かめてもらう



なかむら じゅんこ
中村 純子 議員
能美保守の会

Q 感震ブレーカーの設置促進を図る上でも、周知方法に工夫を凝らしてはどうか

A 令和6年能登半島地震発生の後、新たに、感震ブレーカーが実際に作動した状況が分かる実演機を作製し、春の火災予防運動期間中に市内スパーにて感震ブレーカーの実演を行った。感震ブレーカーは火災予防の一つの方法として効果が高いと考えており、今後、ウェブサイトやSNSでの情報発信、また各町会・町内会の防災訓練時や各種イベントにおいて、作製した実演機を使い、実際に見て、触って、確かめてもらい、普及促進につながる広報活動を行いたい。

Q 普及を後押しするために感震ブレーカーの補助金制度を設けてはどうか

A 補助金制度を設けている県内自治体の状況や、今後の市民の関心度及びニーズの状況を踏まえた上で、制度設置に向け、検討していきたい。



▲感震ブレーカーリーフレット

こんな質問も

- ・個別避難計画
- ・能美根上駅活用
- ・R6年度イベント



子ども・若者を政策決定の場に

答弁 意見の聴取と分析を行い、熟慮する



せんだい けんそう
仙台 謙三 議員
公明党

Q 「子ども基本法」には、国の「子ども大綱」に沿って、各自治体子ども政策の方向性を定める「自治体子ども計画」の策定について明記されている。能美市の取り組みを問う

A これまでの各種計画に加え、「子ども・若者計画」を包含した「子ども計画」の策定を目指しており、策定に当たり実施したアンケート調査には、新たに中学・高校生の保護者と市内在住の中学生から29歳の若者までを対象とした。全ての子ども、若者がウェルビーイングに生活でき、安心して子どもを産み育て、子育ての喜びを実感できる能美市を目指す「子ども計画」を策定する。

Q 子ども、若者を政策の方針決定の場に参加させる機会を設けよ

A 市では、「子ども計画」の策定を進め、当事者における意識やニーズの把握に努め、子ども、若者の政策決定の課程への参加を熟慮する。



▲より明るい子どもの未来のために

こんな質問も

- ・住宅地開発
- ・市営住宅



被災地の教訓を活かした備蓄を

答弁
備蓄計画を見直し整備していく

Q 令和6年能登半島地震の被災地支援により、不足した災害備蓄物資の補充は被災地の教訓を活かし、どのように行ったのか

A 令和6年能登半島地震の発生直後から、被災地からの要請に応じ、市の災害備蓄物資の支援を行った。

避難所運営に携わった職員の見解を反映し、段ボールベッドは利用者の転落防止規格へサイズアップ、パーティションは天井つきの遮音性に優れ、組み立てやすい形式を選定した。

また、長期間、水洗トイレが使えない、哺乳瓶が清潔に洗えない等の声が多く届いていたことから、簡易トイレ袋及び使い捨て哺乳瓶を緊急整備する。

令和4年8月大雨や令和6年



田中 策次郎 議員

能登半島地震での事態を踏まえ、さらに全国で発生した主な災害での避難対応の調査と分析を通し、能美市にとってどのような備蓄体制がふさわしいのか、備蓄計画を見直し、災害備蓄品を整備していく。



▲段ボールベッドで窮屈に過ごす避難者

こんな質問も
 ・生理の貧困
 ・男女共同参画



公民館等でのオンライン診療を

答弁
今年度秋頃からモデル事業を実施予定

Q 地域の拠点である公民館等でオンライン診療が受けられる環境整備を

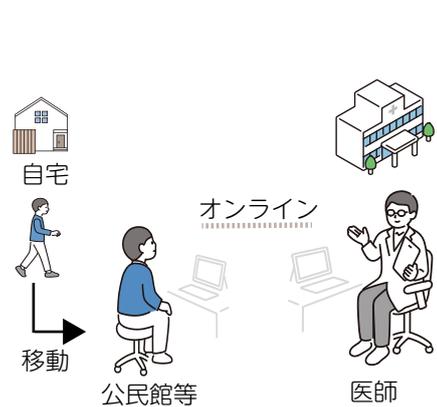
A 今年度は秋頃から、モデル事業として、市内数か所の自治公民館等とデイサービス等介護事業所を診療場所とするオンライン診療を予定している。モデル事業では、オンライン診療時のインターネット環境の通信問題やプライバシーの確保、医師とのコミュニケーションや機器の操作について課題の把握や解決策を検証する。

Q デジタル公民館を拠点とした日用品等の購買配達サービスについて、サービスを効果的に行うための事業展開を問う



荒井 昌宏 議員

A スマート物流サービスは、誰もが安心して住み続けられるよう、生活を支えるサービスとして意図しており、「品揃え」と「地域コミュニティとの連携」の2つの側面から効果的になるようアプローチしていきたいと考えている。



▲公民館でのオンライン診療イメージ

こんな質問も
 ・地域通貨を活用した施策



福祉と防災、双方の視点を融合すべき



澤田 貞 議員
さわだ たかし
清風

答弁
関係部局が連携した
防災対策を図る

Q 第四次能美市地域福祉計画は見直すのか

A 水害や地震など大規模災害が発生し、社会情勢の変化により、地域福祉に求められるニーズが変化している。計画の数値目標の進捗状況を中間評価し、具体の取り組み内容を検証する。

Q 第9期いきいきプラチナプランを問う

A 市民一人ひとりが「生き生き」と「プラチナ」のよりに輝き、人生100年時代の価値ある真の地域共生社会の実現に向けた3層の支援体制を進め、スマートインクルーシブシティ構想のまちづくりに取り組む。

Q 能登半島地震を教訓とした防災対策を問う

A デジタルハザードマップや避難所チェックインシステムの導入に取り組む。防災部局と他部局との連携で、要配慮者に係る防災対策を強化する。



▲能美市防災センター4階の防災コーナー

こんな質問も

- ・災害関連死や孤立解消
- ・避難所のトイレ



九谷焼若手作家への支援は



答弁
公募展のほか販路拡大を
支援する

Q 公募展開催による効果をどのように見込むか

A 若手の才能を開花させ、その育成や伝統産業九谷焼の技術継承につながることを期待し、公募展を企画した。作品への理解と関心を高め、販路拡大も支援したい。若い担い手が夢に向かいチャレンジする姿は、市のイメージの醸成やブランドアップの向上につながり、移住・定住や地域の活性化に寄与するものと期待している。

Q 公募展はどの程度の規模での開催を想定するか

A 令和7年度の秋の茶碗まつりと同時開催する方向で準備委員会を立ち上げ、企画内容や応募規定等を決めたい。

Q 準備委員会の実施はいつ頃を予定しているか

A 遅くとも8月上旬までに開催し、秋頃までに公募展の詳細な内容を取りまとめる。



▲市内在住の若手作家の九谷焼作品

こんな質問も

- ・手取川水害90年事業
- ・能美暮らしの家



北村 周士 議員
きたむら しゅうじ
能美保守の会

ひとり親家庭への 福祉手当は継続せよ

答弁
児童手当等で支援されるため廃止する

近藤啓子 議員
こなつ けいこ
日本共産党



Q 市はひとり親等に月2000円福祉手当を支給しているが、今なぜ廃止なのか

A 本年10月から児童手当が、11月からは児童扶養手当が拡充され、経済的支援が強化されることから廃止する。

Q ひとり親家庭の45%が相対的貧困層である。現金を含めた支援は必要であると考えが見解を伺う

A 子どもの医療窓口費無料化や学校給食費の無償化など様々な支援を行っている。今後も、子育て支援を切れ目なく総合的に行っていく。

Q 加賀東芝エレクトロニクス㈱でPFASは使用しているのか

A 現在少量ながら※PFASを使用しており、専門業者によって産廃処理され、事業所の排水には流していないと報告を受けている。

また、事業所から排出される排水の水質調査の結果は水質汚濁防止法の規制値内である。



▲笑顔で子育てできるまちづくりへ

こんな質問も
・地下水の保全
・児童手当の財源
問題



※PFASとは有機フッ素化合物の総称で、人体に対してコレステロール値上昇、発がん、免疫系等との関連が報告されている。

能美スマートインクルーシブシティ構想 についての勉強会を開催しました！

令和6年6月18日に議員協議会を開催し、能美スマートインクルーシブシティ構想についての勉強会を行いました。執行部からスマートインクルーシブシティの概要とこれまでの実施事業の内容、今後実施を予定している事業の説明があり、事業についての理解を深めました。



勉強会の様子

Q スマートインクルーシブシティ構想とは？

A デジタル技術と市民力の融合によって、だれ一人取り残されないスマートであたたかな能美市を目指すことです。

Q 具体的にどのようなことが進められているのか？

A 自治公民館等のWi-Fi整備、自治公民館でのオンライン診療、ネットや電話で注文した日用品を自治公民館に配送してもらうスマート物流等の仕組みを作っています。

地域と連携した産業観光

調査研究テーマ「観光と交流の推進について」



富山県西部観光社 水と匠の視察の様子

所感

どちらの一般社団法人も産業観光を軸にしており、地域と人をどのようにして結び付けているのかという点と、何か新しく観光資源をつくるのではなく既にある地域資源をどのように観光資源として磨き上げるかという点が重要だと感じた。また、やはり熱量のある地域と人と観光を結びつける事ができるキーパーソンとなる人材が必要だと実感した。

総務産業 常任委員会

当委員会では本年「観光と交流の推進」を所管事務調査として取り組んでおり、産業観光の面で地域と協力して観光振興を行っている一般社団法人 S_ソO_エE(福井県鯖江市)と一般社団法人富山県西部観光社水と匠(富山県砺波市)の2社の行政視察を行いました。

(視察日：令和6年5月22日・23日)

議会活性 特別委員会

能美市議会において政策提言の実現を図るため、「政策提言・政策立案についてガイドラインを作成し、プロセスの確立を図ること」と「政策形成サイクルの確立を図ること」の2つを目的に、先進的な取り組みをしている一関市議会、奥州市議会の行政視察を行いました。

(視察日：令和6年5月9日・10日)

政策提言の実現に向けて

視察先・テーマ 岩手県一関市：政策提言について
岩手県奥州市：政策サイクルについて



一関市議会の視察の様子

所感

両市議会とも常任委員会を実施主体とした政策提言の手法を採られているという点が参考となった。一関市議会では、提言した政策が実施されていない場合のフォローアップとして、常任委員会単位での代表質問の制度を導入しており、奥州市議会では、「政策決議提案」という独自の手法で、より実効性を高めた政策提言を行っていた。これらの取り組みを参考に、能美市議会の実情に合った手法を検討していきたい。

能美のお人柄

能美市で活躍している方々を紹介するコーナー

#6

能美市の豊かな自然を 後世の子どもたちにも 残していきたいです。

今回は、能美市でボディケアサロンを営みながら、「田んぼ体験」の活動をしている後藤さんにインタビューしました。



ごとう けいた 後藤 啓太 さん 整体師

田んぼ体験を始めたきっかけは

仕事の修業期間中に気持ちが落ち込んでいた時期があり、その時に田んぼをさせていただく機会があって、自然に触れることで元気を取り戻すことができました。最初は趣味のようなものでしたが、次第に仲間が増えていき、外部の人向けの体験活動を始めました。**田んぼ体験にはどのような方が参加していますか**

特に多いのは県内南加賀の方ですが、去年から市企画地域振興課と連携した移住体験ツアーの参加者も田んぼ体験に参加することがあります。また、参加者はファミリー層が中心ですが、個人の方も増えています。**田んぼ体験をやっている良かったことは**

で、自然と触れ合うことで笑顔になってくれることが一番うれしいですね。

今後の夢や展望は

自分自身苦しい時に「自然」に助けてもらったこともあるので、田んぼ体験を続けていくことで里山地区の自然景観を維持し、子どもたちに自然と触れ合いながら成長していける場所を残していきたいと思っています。

これからの能美市に期待すること

能美市の魅力は里山・里海が身近にありながら、町とも距離が近く、生活に不便がない、自然とのバランスが取れているところだと思います。金沢市や小松市等の県内の都市部ともアクセスが良いので、これからも、自然と町とのバランスを保ったまちづくりを進めていってほしいです。

編集後記

今号では令和6年6月定例会の内容をお伝えしました。能登半島地震から半年が経過し、補正予算でも復旧・復興に係る経費が計上され、市内の被災か所も元の姿を取り戻しつつあります。

今年の根上り七夕まつりには能登の御陣乗太鼓の皆さんがお見えになり、その伝統の技を披露してくださいました。その鬼の面の気迫で、雨も、地震も、あらゆる災害をも退散させてくれることでしょう！（北村 周士）

広報広聴特別委員会

【委員長】 今尾 晃司
【副委員長】 近藤 啓子
【委員】 北村 周士 澤田 貞
中村 純子 荒井 昌宏



能美市議会公式 YouTube チャンネル

本会議のライブ・録画映像などを配信中！



マチイロ

電子版も読めます！

